

牧野富太郎博士への思いを紡ぐ 公園づくり ～みんなで育てる牧野公園～

1 社会資本の概要

牧野公園は、明治35年、植物分類学者である牧野富太郎博士がソメイヨシノの苗を佐川町に送り、地元有志が青源寺周辺に植えたことにはじまります。当時「奥の土居」と呼ばれていた牧野公園は一時戦争で荒廃しますが、商工会が中心に千本以上の桜苗を植えるなど公園の復活に尽力しました。昭和31年、牧野富太郎博士は名誉町民となります

が、翌昭和32年に96歳で亡くなりました。その年に町は奥の土居の土地を購入し、昭和33年に「牧野公園」と名付けられました。公園整備と共に遊覧道路も整備され、昭和35年に落成。桜は再び最盛期を迎え、平成2年には高知を代表する桜の名所として日本のさくら名所100選に選ばれました。



妻の壽衛さんと牧野富太郎博士



昭和初期
花見客で賑わう「奥の土居」



1990年頃の「牧野公園」

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

牧野公園では平成20年から桜の再生事業を、平成26年からはリニューアル事業に取り組んできました。それと前後して、牧野博士や植物に思いを寄せる地域有志が活動を始め、牧野博士生誕150周年を契機に「牧野公園はなもりC-LOVE」が発足しました。

取組の内容は、週1回の博士ゆかりの山野草の育成や植栽、公園内の整備作業です。モットーは「楽しみながら自由に参加できること」。現在84人

の幅広い年齢層の会員が参加し、週1回の活動以外にもスキルアップのため年1回の視察研修も実施しています。

購入に頼らず自ら手塩にかけて育てた苗を植え、愛着がわく公園づくりを進めることで、参加している一人一人が自分ごととして活動に参加し、一過性のものではなく持続できる活動を行っています。



平成24年「はなもりC-LOVE」発足



平成26年「植栽会」



種から苗を育てる「種まき会」

牧野公園はなもりC-LOVE／佐川町

高知県 佐川町

3 活動の成果や波及効果等

牧野公園は、かつて、ほぼ桜だけを楽しむ公園でしたが、牧野博士ゆかりの山野草を中心に植栽することにより、四季折々、約700種類の植物が楽しめる公園となりました。

また、町の「まちまるごと植物園事業」の核となっており、住民が「育てる」を「楽しむ」場所として活用され、小中学生の総合学習等の教育の場にもなっています。

他にも「牧野富太郎博士生誕祭」が公園を中心として開催されたり、町内の他のグループの地域資源を活用した活動に影響を与えています。



牧野博士がこよなく愛した
バイカオウレン



生誕祭での苗の販売



道の駅での「植栽会」



博士ゆかりの地を巡る
遊歩道の整備
(佐川さとやま遊友会)

喜びの声



受賞者

牧野公園はなもりC-LOVE
山崎・田村

コメント

10年間みんなの努力の成果が認められ、とてもうれしく思います。当初からの目標であった「佐川町の観光の中心地にしたい」ということが叶い、町内外から多くの方が来てくださる、愛される公園になったと感じています。これからもこの活動を継続し、さらに輪を広げながらさらに活動を盛り上げていきたいです。

活動の内容

- 牧野公園での除草や植栽、苗の育成等作業
- 小中学生の総合学習支援

活動の経歴

- 平成24年 牧野公園はなもりC-LOVE発足
- 平成29年 チーム佐川の日大賞受賞
- 令和 5年 手づくり郷土賞（一般部門）受賞

所在地

高知県高岡郡佐川町甲2458

活動主体及び連絡先

牧野公園はなもりC-LOVE
TEL:0889-22-7740(佐川町まちづくり推進課)

対象となる社会資本

牧野公園
(連絡先:さかわ観光協会 TEL:0889-20-9500)

